

平成17年度における教職員の人事異動に関する基本方針が決まりました

本県教育のいっそうの進展をめざして、社会情勢の推移および学校教育の課題解決に向けた教育改革の推進を踏まえ、全県的立場にたつて教職員の適正な配置を行い、組織の充実と刷新を図ることを目的に人事異動を行います。

基本方針

一、組織の充実

教科、性別、年齢、能力および適性等を考慮して、組織の充実を図る。

二、組織の刷新

同一校における長年勤務者の異動を促進し、あわせて新規採用者等の適正な配置に努め、組織の刷新を図る。

三、交流の促進

南北地域間の交流および同一地域における長年勤務者の広域交流を積極的に進める。また、校種間の適正な交流を図る。

四、管理職員の配置

管理職員については、教育上の課題に対処しうる人材の全県的視野からの登用と配置に努め、地域に開かれた特色ある学校づくりの推進を図る。

人事異動の重点

（小・中学校）

一、同一校・同一地域長年勤務者および新規採用後同一校三年以上勤務者の異動を計画的に促進し、教職員組織の刷新を図る。

二、長期的展望にたつた広域にわたる交流を図る。

三、教育課題の多い学校の組織の充実と刷新を図る。

四、管理職員の任用にあたっては、教育課題について自覚と実績を有する者の登用に努め、創意ある学校経営の推進を図る。

（県立学校）

一、同一校長年勤務者および新規採用後同一校三年以上勤務者の異動を促進し、組織の刷新を図る。

二、高等学校の課程間および学科間の交流を促進し、教育課題の多い学校の教職員組織の充実を図る。

三、盲・聾・養護学校に専科教員を配置する等、人的条件の整備に努め、教育指導力の向上を図る。

四、管理職員の任用にあたっては、地域や学校の実情に応じ幅広く人材を確保し、教育課題について自覚と実績を有する者の登用に努め、創意ある学校経営の推進を図る。

シリーズ 人が輝く 人権教育

「病院で会った人から 教えられたこと」

高校生のAさんは、次のような体験を作文に書きました。

「部活の練習で足首を捻挫し、一週間ほどたつた頃、治療のために病院の待合室で椅子に座っていると、松葉杖をついた方が入ってきました。その時、空いている席はありませんでした。しかもお年寄りの人がほとんどで私が一番若かったです。私は席を譲ろうかなと思つたのですが、何か恥ずかしくて言い出せませんでした。きつと受付の人が椅子を持ってきてくれるに違いないと思いました。また、私も足を捻挫しているから、まあいいか。」



と自分に言い聞かせてしまいました。すると、隣に座っていた六十歳くらいの女の子がすっと立たれ、『ここへどうぞ。』と、席を譲られました。

その時、とてもその場に居づらく

なり、診察室に私の名前が呼ばれるまでの時間が普段の何倍も長く感じられました。

名前が呼ばれ、少し足を引きずりながら診察室に入ると、軽い運動なら再開してよいとのことでした。明日から部活動ができるうれしさと、待合室のできことをすっかり忘れていました。

支払いを済ませ帰ろうとした時、さっきの松葉杖の方と目が合いました。どきとしたその時、『足の具合はどうでしたか？』

と心配そうに声をかけてくださいました。まさかそんなことを言うてくださるとは思いませんでしたので、慌ててしまい、何も言葉が出てきませんでした。私は、自分のことしか考えていなかったことを後悔しました。そして、今度は必ず勇気を出して思ったことを実行しよう、と思いました。」

Aさんは病院のできことを通して、自分を見つめ直すことができました。

周囲の大人たちの何気ない行動や言葉かけが、子どもたちの心を揺さぶり、子どもたちが自らを高めようとするきっかけとなっています。このように、私たちの身近な人の中に人権教育の場はあります。

（写真と本文とは関係ありません）

滋賀県教育委員会事務局人権教育課HPアドレス
<http://www.longlife.pref.shiga.jp/jinken/index.htm>